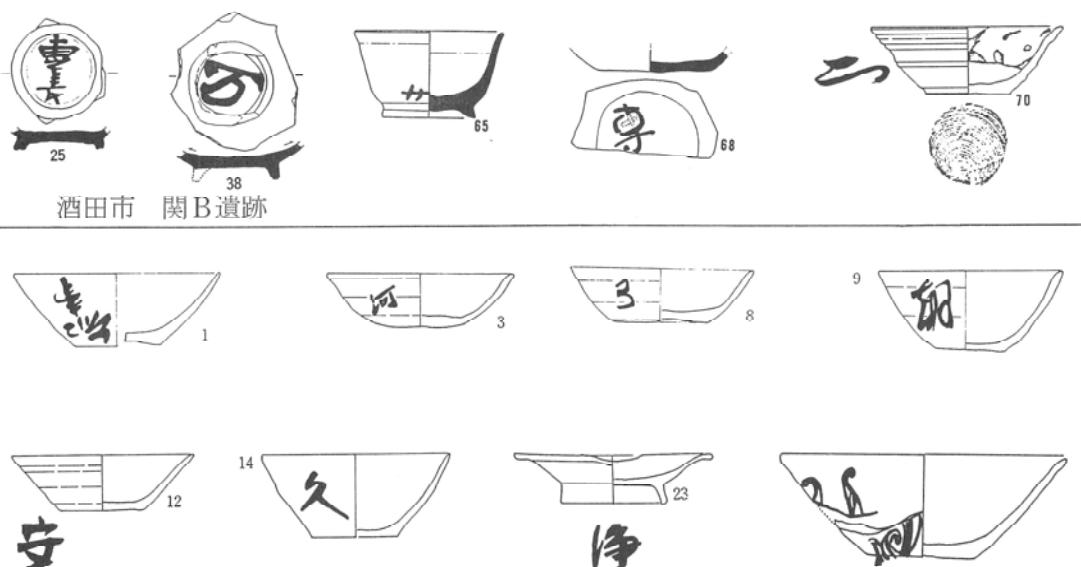


## 2. 庄内地方出土の墨書土器

近年の発掘調査により、庄内地方における墨書土器の出土量も増加している。出土点数の多い遺跡には、酒田市の上ノ田・北田・関B遺跡、八幡町の後田遺跡、遊佐町の地正面遺跡、藤島町の平形遺跡があげられる。又、今年度の調査による八幡町の沼田遺跡と本遺跡をさらに加える事ができる。遺跡の性格は早急には断定できないが、公的な官衙・官舎と考えられる上ノ田遺跡、古代村落と考えられる北田・関B・後田・地正面・平形遺跡（庄園・庄家の可能性もある）・新青渡遺跡の二つに分ける事が出来る。

墨書土器をその器種別に観るに、壺類でしかも須恵器が頻繁に使用されている。上ノ田遺跡では34点出土しておりすべて須恵器で壺・皿・蓋が使用されている。北田遺跡では1・2次合わせて34点出土しており、赤焼土器への墨書は二点だけである。関B遺跡では1・2次合わせて31点出土しており、内須恵器が20点である。後田遺跡では26点出土しており、内須恵器は21点である。地正面遺跡では22点出土してすべて須恵器である。平形遺跡では29点出土しており、内須恵器では27点である。新青渡遺跡では125点出土しており、内須恵器が99点である時期的に9世紀代とされる上ノ田・地正面遺跡で須恵器の使用率が高く、時代が登るにつれて、赤焼土器の使用が増加している事がわかる。

墨書部位については、壺については底部が大半をしめている。文字の別により底部、体部と書き分けた形跡は無いようである。



第38図 庄内地方出土墨書土器（2）

一つの遺跡で同一文字が多数出土したのには、後田遺跡の「中」16点、地正面遺跡の「上」15点、新青渡遺跡の「祁」38点、「三」34点がある。特に新青渡遺跡では点数も多く、出土地点も集中した地域に限定されており、祭祀的内容を色濃く反映している。

墨書銘は一字のみを書く例が多く、言葉が簡略化あるいは省略されている場合もあると考えられ、その意味と解釈についても諸説ありまだ不鮮明といえる。北田遺跡の「靈長」や新青渡遺跡の「祁」については文字の通りとれば嘉字・呪字の分類に入る。

墨書土器の出土例は、発掘調査の増加に伴ってさらに多くなる事と思われるが、遺跡の性格と墨書土器の関わり、又文字の使用と普及の問題、墨書土器がもっている古代に限定されるその性格についてが今後の課題といえる。

## 註

- 註1 小野 忍 「城輪柵跡」『月刊考古学ジャーナル』119号 1982年  
註2 川崎利夫 「出羽国分寺はどこにあったか」 『羽陽文化』114 1982年  
註3 佐藤禎宏 「仁和三年条の国府移転に関する覚書」『庄内考古学』16号 1979年  
註4 米地文夫『土地分類基本調査 酒田 5万分の1 地形分類』山形県 1978年  
註5 安部 実他 『豊原遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書 第66集 1983年  
註6 安部 実他 『新青渡遺跡第1次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第67集 1983年  
註7 佐藤庄一・安部 実 『俵田遺跡第2次発掘報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第77集 1984年  
註8 佐藤庄一他「後田遺跡」『農林事業関係遺跡(2) 発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第64集 1983年  
註9 註6に同じ  
註10 註6に同じ  
註11 川崎利夫他 『関B遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書 第47集 1981年  
川崎利夫他 『北田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書 第48集 1981年  
註12 金子裕之 「古代の木製模造品」『研究論集VI』奈良国立文化財研究所学報第38冊 1983年  
註13 佐藤庄一他 「上ノ田遺跡」『農林・土木事業関係遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第52集 1982年  
註14 註11に同じ  
佐藤庄一他 『北田遺跡第2次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第53集 1982年  
註15 註11に同じ  
佐藤庄一他 『関B遺跡第2次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第68集 1982年  
註16 註8に同じ  
註17 佐藤庄一他 『農林事業関係遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第51集 1982年  
註18 川崎利夫他 『平形遺跡・周辺遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第26集 1980年  
註19 野尻 侃他 『沼田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第78集 1983年